

飯伊 けいざい

第430号

異業種交流

地域で出産しやすい環境を

飯田市本町4の医療法人龍川会西澤産婦人科クリニック(多田伸院長)は、妊婦の血液から胎児の染色体異常を調べる「新生前診断」(NIPT)の連携施設に認定され、10月から運用を始めた。県内の民間病院としては初。

NIPTには実施する医療機関や検査分析機関の認証制度があり、日本医学会の運営委員会が認証している。認証医療機関には基幹施設と連携施設があり、NIPTを実施するだけでなく、出生前検査に関する正しい情報を提供し、検査前や後の遺伝カウンセリングを行い、妊婦の不安や悩みに寄り添う支援が整えられている。

県内では信州大学医学部附属病院が基幹施設、県立こども病院など4施設が連携施設に認証されており、このうち飯田下伊那地域では同クリニックと飯田市立病院の2施設がある。

西澤産婦人科クリニック 新生前診断の認証施設に

同クリニックは山崎輝行院長が研修を修了し、9月に認証を受けた。愛知県の基幹施設の一つ藤田医科大学病院と連携している。

認証施設のNIPTは精度の高い結果が得られる13トリソミー、18トリソミー、21トリソミー(ダウン症候群)の3つの染色体疾患に限定して検査を行っている。羊水検査などNIPT以外の出生前検査も受けられ、必要に応じて他の医療機関と連携して検査につなげられるようにしている。

西澤春紀特任副院長は「今まで不安のある人は県外まで行かねばならなかったが、飯伊は2つの施設が認証され、良い環境が整えられた。検査、相談できる場所が近くにあることに意義がある」と話す。

一方、「飯伊の出産数は減り続けており、地域の将来が心配」と危機感を口に、「少子高齢化、高齢出産などの時代背景の中、出産するのに良い環境地域にならなければ。行政も含め、妊娠、出産に関わる全ての支援を整えていくことが重要」と強調する。「NIPTは支援の一つで、いかに不安を取り除いてあげられる環境をつくることが大事」とし「妊娠、出産、子育てがしやすいまわりに貢献したい」と述べた。



NIPTを担当する山崎医師(中央右)ら